

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	数理解析学	
科目基礎情報							
科目番号	0029			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	総合イノベーション工学専攻（先端融合テクノロジー連携教育プログラムコース）			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	教科書：なし（毎回資料を配布する）参考書：「新応用数学」 高遠他著（大日本図書）、「複素関数入門」神保道夫著（岩波書店）						
担当教員	桑野 一成						
到達目標							
＜この授業の到達目標＞ 複素数および複素関数の基本事項について理解すること。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	学科で学んだ微分積分の知識を自在に応用できる。			学科で学んだ微分積分の知識を応用できる。		学科で学んだ微分積分の知識を応用できない。	
評価項目 2	数理解析学の理論的基礎をよく理解している。			数理解析学の理論的基礎を理解している。		数理解析学の理論的基礎を理解していない。	
評価項目 3	数理解析学の知識を応用して、新しい問題に取り組むことができる。			数理解析学の知識を応用できる。		数理解析学の知識を応用できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	＜授業のねらい＞ 複素関数論は数ある数学の理論の中でも、最も美しい結果を備え、さまざまな分野への応用も豊富な理論の一つである。 ・学科で学んだ微分積分の内容を踏まえて、複素関数論の様々な美しい結果を学ぶ。						
授業の進め方・方法	＜授業の内容＞ この授業の内容は全て学習・教育到達目標(B)＜基礎＞及びJABEE基準 1 (2)(c)に対応する。						
注意点	＜学業成績の評価方法および評価基準＞ 後期中間試験、学年末試験の2回の試験の平均点を70％，課題の評価を30％として評価する。再試験は実施しない。 ＜単位修得要件＞ 学業成績で60点以上を取得すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	複素数平面	1.複素数平面について理解する。			
		2週	オイラーの公式	2.オイラーの公式について理解する。			
		3週	複素関数	3.基本的な複素関数について理解する。			
		4週	複素指数関数・三角関数	4.複素指数関数および複素三角関数について理解する。			
		5週	複素対数関数	5.複素対数関数について理解する。			
		6週	正則関数	6.正則関数について理解する。			
		7週	総合的な演習	上記1～6。			
		8週	中間試験	上記1～6。			
	4thQ	9週	複素微分	7.複素微分について理解する。			
		10週	複素積分	8.複素積分について理解する。			
		11週	コーシーの積分定理	9.コーシーの積分定理について理解する。			
		12週	コーシーの積分公式	10.コーシーの積分公式について理解する。			
		13週	留数定理1	11.留数定理について理解する。			
		14週	留数定理2	上記11。			
		15週	総合的な演習	上記7～11。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
配点	70	30	0	0	0	0	100